社会資本総合整備計画(活力創出基盤整備)事後評価書

平成28年3月29日

	<u> </u>	_ 1000 - C	2 (10)361日至田正備/ 子及1		1 72	1						
計画の名称	幸田駅前の顔となる中心市街地における利便性の向上、にぎわいの再生、安全で安心なまちづくりの実現											
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5年間)											
計画の目標	幸田町の顔というべき中心市街地において、土地区画整理事業を進め、都市計画道路の整備並びに老朽化した建物の建替えを行うことにより利便性の向上、にぎわいの再生、安全で安心なまちづくりの実現を図る。											
計画の成果	計画の成果目標(定量的指標) 定量的指標の現況値及び目標											
			•	当初現況値	中間目標値	最終目標値						
				(H22当初)	(H24末)	(H26末)						
			の朝の通勤・通学時間帯における渋滞回数を 回(H26)へ減少	32回	30回	28回						
		前における₂ /目(H26)╭	歩行者自転車交通量を1,564人/日(H22)から 〜増加	1,564人/日	1,580人/日	1,600人/日						
			整理区域内の建物が耐火建築物等である割 ら70% (H26)へ増加	50.9%	60.0%	70.0%						
			整理区域内の中高層建築物(高さ15m以上の 5戸数を1戸(H22)から20戸(H26)へ増加	1戸	1戸	20戸						
交付対象事	 業			•								
A 基幹事業												
番号	事業種別	事業者	対象事業	事業の内容								
12-A1-1	街路 幸田町 幸田駅前地区((都)芦谷蒲郡線他) 区画整理A=2.9ha											
B 関連社会資	本整備事業			'								
番号	事業種別	事業者	対象事業	事業の内容								
-	-	-	_	-								
C 効果促進事	業			•								
番号	種別	事業者	対象事業	事業の内容								
12-C-1	施設整備	幸田町	幸田駅周辺調査設計	調査設計費								
12-C-3	施設整備	幸田町	歩行空間整備	雨水排水処理								
12-C-4	施設整備	幸田町	防犯灯整備	防犯灯整備(環境配慮型照明)								
12-C-5	施設整備	幸田町	地域まちづくり活動支援	まちづくり活動(まちづくりルール検討他)								
12-C-6	施設整備	施設整備 幸田町 消防自動車整備 30mはしご車										
全体事業費	1,894百万円											

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期		
•幸田町で実施	•事業終了後	•事業終了後	
	公表の方法		
	・幸田町ホームペー	 ·ジに掲載	

○事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

区画整理地内の都市計画道路整備のため、(沿道の)建物移転が進んだことによって、以下のとおり利便性の向上、にぎわいの再

- 生、安全で安心なまちづくりが図られたと考える。
 ・整備前の歩道のない道路に歩行者等の滞留スペースができたことにより、幸田駅前交差点の渋滞が軽減された。【利便性の向上
- ・準防火地域に対応した建物が建築され、新たにできた店舗への集客により、にぎわいの効果も生じている。【安全で安心なまちづ くり、にぎわいの再生】

and the Market State of the Sta							
Ⅱ 定量的指数の達成状況							
指標①	最終	28回	目標値と実績値に差が出た要因				
幸田駅前交差点の渋滞回数	目標値		道路改良は未着手であるものの区画整理事業による建物移転で、歩行				
	最 終 実績値	13回	及び自転車の滞留スペースができたことで歩行者等の道路横断がスムーズになり、車の交差点通過にも良い影響がでた				
指標②	最 終 目標値	1,600人	目標値と実績値に差が出た要因				
幸田駅前における歩行者自転車			徒歩及び自転車による駅利用者が増えたことが一番の要因。 午前10時から午後4時の時間帯では、商店街駐車場から駅前交差点の間				
交通量	最 終 実績値	2,150人	午前10時から十後4時の時間帯では、閻店街駐車場から駅間交差息の間 の交通量が増えていることから、新たにできた店舗への集客の効果がみて とれる				
指標③	最 終 目標値	70.0%	目標値と実績値に差が出た要因				
			区画整理事業の建物移転により、値が上昇した				
幸田駅前土地区画整理区域内の建物の耐火建築物等である割合	最 終 実績値	84.6%					
指標④	最 終 目標値	1戸	目標値と実績値に差が出た要因				
			期間内に高層化棟の建設が実現しなかったため				
幸田駅前土地区画整理区域内の中高層建築物の住宅供給戸数	最 終 実績値	0戸					

○特記事項(今後の方針等)

- ・「安全で安心なまちづくり」「利便性の向上」をより一層推進するため、今後は早期に建物移転を完了させ、都市計画道路の整備に取り掛かりたい。(平成26年度末現在の区画整理事業の建物移転率は88.6%であり、整備する都市計画道路については、歩道の新設・右折帯の設置・電線類の地中化を行う)
- ・「にぎわいの再生」に向けては、集合換地(申出換地を実施した区域)の開発を早期に実現することにより、通勤・通学以外の時間帯のにぎわいの創出を図りたい。(集合換地は2箇所あり、1箇所は開発済み)